

Free Status and Mongolia's possibility to be an international peace mediator are significant to Northeast Asian security.

References

1. *The Concept of Mongolia's National Security*. Ulaanbaatar, Mongolia. 2010
2. *The Concept of Mongolia's Foreign Policy*. Ulaanbaatar, Mongolia. 2011
3. Ulambayar D. *Mongolia and Western: An Economic Relationship. From beginning of the XX on early of the XXI century*. Khukh sudar press. Ulaanbaatar, Mongolia. 2007. 406 pages (in mongolian)

4. Ulambayar D. *Mongolia's Third neighbor policy: theory, history and contemporary case*. Main Trends of contemporary international relations and Mongolia. Admon printing. Ulaanbaatar, Mongolia. 2011. pp.31-59

5. Ulambayar D. *Mongolia-ROK good neighborly comprehensive partnership. Rainbow arisen on steppe*. Seoul. ROK. Greenpress. 2012. pp. 223-245. (in korean)

6. Ulambayar D. *Mongolia and the Far Eastern: International relations, geopolitics and diplomacy. From beginning of the XX on early of the XXI century*. Munkhiin useg press. Ulaanbaatar, Mongolia. 2013. Two volumes. 859 pages (in mongolian)

北東アジアの安全保障問題とモンゴルの「第三の隣国」政策

人文科学大学国際研究教育シンクタンクセンター所長 D. ウランバヤル

(要旨)

モンゴルは、北東アジア地域内すべての国々と2国間レベルで法に基づく戦略的・包括的なパートナーシップ及び友好的な協力関係をもつ唯一の国である。言い換えれば、この域内において、とりわけ政治的論争などの深刻な対立関係を持たないことは、モンゴルの国家安全保障上、重要な成果である。

2012年9月に署名された国連安保理常任理事国5カ国によるモンゴルの「一国非核の地位」を支援する共同宣言と、モンゴルによる「一国非核の地位」宣言は、次の点において大変重要である。第一に、世界及び地域の安全保障強化への貢献。第二に、核保有国と非核国の相互協力の可能性の提示。第三に、核兵器の不拡散努力。このモンゴルの経験は、近い将来、朝鮮半島を非核兵器地帯へと変える手本となるかも知れない。

さらに、モンゴルの「第三の隣国」戦略も、北東アジアの安全保障の確保に役立てられそうである。今のところ、モンゴルは世界の地政学的環境において「第三の隣国」となり、すでにその法的枠組みを決めている。

モンゴルの「第三の隣国」政策は、地形的理解を越えており、特定の1国を対象としてはいない。地理的配置や空間的特徴からくる国際関係論の枠を外れて、政策、安全保障、経済、地政学の側面にまで及んでいる。こうしたモンゴルの「第三の隣国」戦略は、その特異な地理的位置に関係した地政学として示され、2つの隣国の政策と行動の間で長期に亘って適切な力のバランスを保ち続けることと、総括的な政治的・外交的・経済的手段による国の安全保障を確保することに向けられたモンゴルの純粋な国益から生まれている。広い文脈においては、東西の先進・民主主義国家、国連、モンゴルの民主主義と市場経済を強く支持する国々など、世界政治の中で影響力ある主体を含んでいる。「第三の隣国」戦略の理論的基礎は、力のバランスである。

従って、モンゴルの「第三の隣国」戦略は、北東アジア各国間の協力を発展させる材料をもたらすはずである。

[英語原稿をERINAにて翻訳]